

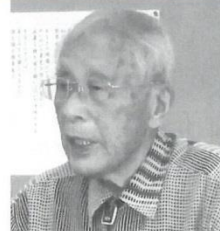
無縫

No.70

発行 一般財団法人 田澤記念館
住所 佐賀県鹿島市大字高津原434番地
発行責任者 平野重徳・小池幸照
発行所 鹿島印刷株式会社
発行日 2017年1月20日

謹んで新春のお慶び申し上げます

会長 平野重徳



新春のお慶びを申し上げます。皆様にはご健にて新年をお迎えのことと存じます。旧年中は、田澤記念館の運営・活動に多大なるご支援を賜り、衷心より厚く御礼を申し上げます。最近のわが国における「人の道」や「人としての常識」を著しく逸脱した現象は誠に憂うべきことであります。

人の生命の尊さや相互尊重、感謝などの心がないがしろにされ、自己中心的風潮が殺伐とした社会へと追い込んでいっているように思えてなりません。

「今こそ田澤精神にかえれ」と、多くの心ある人達が熱望しておりますものの、いまだ国民的意識は乏しく、さらには我が郷土を含む県民が、田澤義鋪先生の実践の伴った思想や主張を積極的に学びとろうとする意欲に欠けるのも口惜しいことであります。

「道義国家」を掲げ、人として極めて基本的な正しい生き方を示され、揺るぎない平和国家の建設や正しい選挙のあり方を含む清浄な政治。郷土の活性化、労使協調と進歩発展など、100年も前に唱えた人が田澤先生以外に存在したでしょうか。

「国際社会に生きる誇れる日本人」の存在についても、日本の将来をしっかりと見据えた提言でありました。誇るべき郷土の偉人「田澤義鋪先生」の精神を受け継ぐべく、田澤記念館では「青少年教育」の研修を通じて、微々たるものではあります。継続的に取り組んでいるところであります。

幸いにも、平成28年から鹿島市内の小学校で田澤義鋪先生についての出前授業を開始しました。田澤義鋪先生の地元の児童に田澤精神の種まきです。

皆様方には、地道に一歩ずつ前進しております将来を担う若者達への限りないご支援を今後も賜りますよう、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げ、新年のご挨拶と致します。

新年のあいさつ

代表理事 小池幸照



新年明けましておめでとうございます。昨年中はご支援をいただき厚く御礼申し上げます。昨年、九州地方では熊本地震等があり、その他日本でもこれまでの社会にはあり得なかった様々な悲しむべき事件が報じられ、啞然とするばかりでございました。また、18歳からの投票が実施されたものの投票率は以前とあまり変わらない結果となりました。本年こそは、温かく平和な日々を取り戻したいと願わずにはいられません。田澤先生が主張し続けられた「道の国日本」のため「政治教育」「青年教育」について、今こそ本気で学び、人としての生き方考え方を改めるべき時代であろうと存じます。

田澤記念館では、青少年のための「ユースカレッジ」や「少年クラブ」の研修を通じ友愛・自主性・責任ある言動・感謝の心・継続力・礼節などを基本に、人として本来あるべき姿、人格の形成に努めているところであります。田澤先生の精神は、今日においても揺るがぬ社会の規範となっていることは申すまでもございません。

今後も田澤精神をさらに推し進める覚悟であります。どうぞ限りないご理解とご支援を賜りますようお願い致します。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

変化なき者に進化なし!・過去は資源 ユースカレッジ研修感想から



今回はご自身の人生を振り返って、学び、経験したことについてお話しして頂きました。

高校に入学したときに、中学の実績にとらわれて思うような結果が出なかったときに、自分の栄光は忘れることが、次のステップに上がるための必要なことと話されました。「過去がどうであろうと屁の突っ張りにもならん。」人は少なからず思い出や過去の栄光に浸ってしまうものだと思います。そこで気持ちを切り替えて、新たなスタートを踏み出すことが大切なのだと感じました。この経験を忘れずに同じ過ちをしないことが大事だと思います。

仕事をする上で、報告・連絡・相談は必要なことです。人の技術を見て「盗む」ことは、どの分野においても、自分を成長させるための一つの手段であり、分からないときは人に聴き、ごまかさないと技術や知識の上達にも繋がると感じました。

最後に「変化=受け入れ」という言いまわしで、人から注意されたり、怒られたりしたときに、いかにそれを今後の自分の進化のためと考えて、素直に受け入れられるのが非常に重要な考え方だと感じました。人それぞれの考え方が異なり、意見が分かれてぶつかり合うことがあると思いますが、その意見を一つの考え方として、頭に入れて仕事をするすることで、新たな発見があるかも知れないと思います。

森鉄工 川上 拓郎



田澤義舗先生の母校で田澤精神の出前授業



今年度の取り組みの目玉として、田澤精神を地元鹿島の子ども達へ啓発するために、市内の小学校7校と高校2校で田澤精神の出前講座が行われました。田澤義舗先生の母校鹿島小学校では、一事貫行を続けてありました。喜ばしいことです。田澤記念館館長がパワーポイントを使い、田澤義舗先生の幼児、小学校、中学校時代のエピソードを交えながら田澤先生の功績と田澤精神について、小学生にも分かるようにと工夫して話してました。

また、鹿島高校(旧鹿島中学校・田澤義舗母校)では掲示板に「平凡道を非凡に歩め」が毛筆で書かれており、全校生徒が体育館で真剣に田澤義舗先生について話に聞き入っていました。

なお、小学校での出前授業の取り組みが、毎年できるようにと働きかけているところです。

感想

- 今日の学習で田澤先生の行動がすごいと思いました。それはどうにか工夫をして自分たちで作り上げるという考え方です。北鹿島小 5年男子
- 自分一人が良くなるのではなく、みんなが良くなるといけないという田澤先生の考え方はすごいと思いました。田澤先生みたいな人が鹿島にいたなんて、とてもほこりに思いました。私も田澤先生みたいな考えと仲間を持ちたいと思いました。七浦小 6年女子
- ぼくは鹿島に田澤さんのような人がいたとは知りませんでした。田澤さんは世界にほこれる人だと思いました。鹿島小 5年男子



田澤の日11月24日「故郷ば錦で…」ケーブルテレビ放映



田澤義舗生誕記念大会を5年に一度行っていますが、それでは鹿島市民への啓発力が乏しいので、次の生誕135年記念大会(2020年)までの間に何か毎年できることはないかと、評議委員会で討議されました。その結果、今年度佐賀城本丸歴史館で上演された「故郷ば錦で…」(田澤義舗少年～大学時代)の録画を、ケーブルテレビで放映することができればと意見がまとまりました。そして、11月中旬に4日間放映がなされました。田澤精神を啓発することの新たな一歩が始まりました。



＊ ご寄付ありがとうございました。＊

- 青年団OB有志様
- 富久千代酒造有限公司 代表取締役 飯盛直喜様
- 鹿島市民チャリティーゴルフ大会様
- 山下義則様
- 山田恵美子様(故山田豊元理事夫人)